

あとがき

学生時代の後半と教員生活の前半を京都大学防災研究所宇治川水理実験所で過ごし、結婚後、伏見区日野に居住している私にとって、伏見あるいは伏見区は日常の生活圏である。しかし、今回、リーフレット執筆にあたり、改めて知った事柄も多く、これまでの自分の無知に恥じ入っている。今さらながら、伏見は歴史の深い、趣のある町であるとともに、自然の恵みと脅威に接しながら、人々が種々の工夫を凝らして生きてこられたことに感銘を受けている。

2014年春、21年間勤めた摂南大学を退職し、久しぶりに京都大学防災研究所流域災害研究センター宇治川オープンラボラトリーを訪ねた際、センター長の中川一教授から、構内にピオトープを作ってみないかと誘いを受けた。そこで、巨椋池跡を中心とした約10km四方の範囲を1/200に縮めた流域模型ピオトープを作りたいと考え、現在作業を進めている。今回のリーフレットに取り上げた事はほぼこの模型の範囲に含まれる。模型の大きさは約50m四方で、全域をくまなく歩いても1時間あれば十分である。このリーフレットを手にしながら、現地とともに、この模型ピオトープを散策することのできる日が待ち遠しい。

(公社)日本水環境学会関西支部川部会 / 澤井健二

参考文献

- ・伏見稲荷大社ホームページ <http://inari.jp/>
- ・京エコロジーセンターホームページ <http://www.miyako-eco.jp/>
- ・農林水産省ホームページ「夢よ咲け 巨椋池」<http://www.maff.go.jp/kinki/seibi/oguraike/>
- ・澤井健二(2006)関西の川歩き 伏見の川・日野川,環境技術,Vol.35,No.1,70-72.
- ・田中明成(2005)親鸞聖人ゆかりの地 京都・日野の里,いなば明成苑出版部.

既刊の紹介

- ・源流を行く 編 『名張川』(2013)『木津川上流』(2013)『高時川・余呉湖』(2014)『桂川・由良川源流』(2014)
- ・おうみの川 編 『赤野井湾と流入河川』(2013)
- ・みやびな川 編 『白川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)『京の川』(2014)『高野川』(2015)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)『天野川』(2015)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)『大川と大阪市内河川』(2013)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
〈企画編集〉(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(一社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる
～ちょっと大人の散策ブック～ 〈みやびな川編〉

伏見の川・醍醐の川 (Fushiminokawa・Daigonokawa)

〔発行〕平成27年3月

〔発行者〕公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036
〈ホームページ〉 <http://www.byq.or.jp/>
散策ブックはホームページ上で閲覧することができます

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、寄付への協力・賛助会員のご入会をお願いしております。戴いた会費・寄付金は、当機構を通じ琵琶湖・淀川流域の水質保全に活かされます。詳しくは、ホームページをご覧ください。

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる ～ちょっと大人の散策ブック～

みやびな川 編

伏見の川・醍醐の川

(Fushiminokawa・Daigonokawa)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構
(公社)日本水環境学会関西支部川部会
(一社)近畿建設協会



「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流に行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、みやびな川編として、京都市伏見区を流れる複数の川と水辺を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

目次

ねらい・目次	
伏見の川と醍醐の川の概要	02
伏見区中央部の水辺	03
コラム1 宇治川の氾濫	05
コラム2 伏見の川の水質	08
伏見区東部の川	09
コラム3 日野の歴史、市民活動	11
伏見区南部(向島と巨椋池)	13
コラム4 巨椋池	14

CONTENTS

1 伏見の川と醍醐の川の概要

伏見は京都市最南端の区で、宇治を経て奈良に至る大和街道の入り口でもある。伏見と言えば、酒処で有名であるが、酒造りには良質で豊富な地下水が欠かれない。「伏見」の名は「伏水」がその名の由来とも言われる。その代表格は御香宮の御香水であろう。湧水もらいに来る人が今も絶えない。近くには酒造会社が32もあり、水面と酒蔵の取合せが独特の景観を醸し出している。

その伏水の水源となっているのが、桃山丘陵で、その北側に稲荷山(233m)がある。桃山丘陵の北端にある大岩山(182m)からは七瀬川が西方に流れ出し、東高瀬川(長さ約5km)に合流する。

伏見港は淀川の川港である。京都の街中の舟運と言えば、高瀬舟が有名であるが、その通路であった高瀬川の流末が伏見港なのである。伏見港にはもうひとつ、

琵琶湖疏水の末端がつながっている。伏見港と淀川(宇治川)の水位には以前からかなりの落差があり、舟の出入りには閘門を必要とした。今では宇治川の水位が低下したことから、この閘門はその本来の機能を失っているが、最近になって修景工事が施され、モニュメントとしての機能を果たしている。伏見港につながる濠川や宇治川派流では、近年の環境復元ならびに町おこしの一環で、十石舟や三十石船も復活し、寺田屋浜や大蔵記念館浦などの船着場は観光客で賑わっている。

伏見区とは言っても、桃山丘陵の東、すなわち山科盆地の南を流れる主な川は山科川(長さ約15km)である。その支川に1級河川合場川(長さ約2km)があり、そのさらに支流に日野川(長さ約2km)がある。日野の里には鴨長明方丈石や法界寺、親鸞聖人誕生院など、長い歴史の香りが漂っている。

その北には、世界遺産で知られる醍醐寺があり、名水でも知られている。

伏見の南方には、以前、巨椋池という広大な池が存在した。昭和の初期に干拓されて、今は農地や宅地になっているが、向島地区や一口地区に往時の面影が残っている。

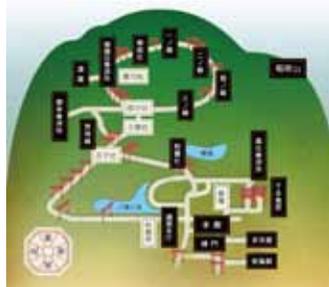


伏見の川・醍醐の川流域図

2 伏見区中央部の水辺

伏見の中央北端に**伏見稻荷**で名高い**稲荷山**がある。稲荷山へは、京阪電車の伏見稲荷駅あるいはJR奈良線の稲荷駅から歩いて1時間弱で上ることができる。山頂付近には一周約30分の周回路（お山めぐりルート）が整備されているが、その東端付近にある**薬力瀧**から北谷沿いに下ると、**清明瀧**、**清瀧**、**白瀧**、**御壺瀧**、**五社瀧**を経て、**三ノ橋川**に至る。三ノ橋川は、下流で**東福寺**の**通天橋**の下を流れ、**伏見街道**の**第三橋**、**琵琶湖疏水**の下をくぐって、**鴨川**へ注いでいる。

一方、周回路の**一ノ峰**（稲荷山山頂）から南谷を下ると、**末廣瀧**、**白菊ノ瀧**、**鳴瀧**、**七面瀧**、**青木ノ**



伏見稲荷大社と稲荷山
〔出典：伏見稲荷大社より〕



東福寺通天橋



三ノ橋川（東福寺臥雲橋下流）



伏見街道第三橋



三ノ橋川・鴨川合流点



京エコロジーセンター ヒオトープ
〔出典：京エコロジーセンターより〕



城南宮



楽水苑 曲水の宴



鳥羽離宮跡碑



鴨川龍門堰と
市民団体による仮設魚道の設置

瀧、**弘法ノ瀧**、**命婦ノ瀧**を経て、**深草**に至る。

深草の丘陵には、近畿各地に分布する大阪層群の露頭があり、多くの化石が採取されている。また、この近くで取れる藤森粘土は土質試験の標準試料としてよく用いられる。

深草から疏水沿いに約500m南へ行くと、名神高速道路のすぐ南側に、京都市青少年科学センターと、環境学習と環境保全活動の拠点として2002年に開設された**京エコロジーセンター**がある。

その約1.5km西方、名神高速道路京都南インターチェンジのすぐ南、国道1号線の東側に、方除けの神社として有名な**城南宮**がある。その社殿を取り囲むように、5つの庭からなる楽水苑が作られており、中でも「平安の庭」は大きななだらかな曲線をもつ池を中心として、曲水の流れも作られ、平安貴族の優雅な行事である「曲水の宴」の再現が行われている。城南宮の池は地下水を利用して、冬の特に寒い日には、地下から汲み上げた池の水が湯気を立てて、独特の風情を醸し出す。

城南宮のすぐ西側で1号線と鴨川の間、12世紀から14世紀頃まで代々の上皇により使用されていた院御所であった**鳥羽離宮跡**があり、公園になっている。

伏見区内の鴨川には大きな堰（落差工）が2つあり、魚類の遡上を妨げていた。鴨川の最下流で桂川への合流点に近い**龍門堰**は落差が2m近くあったが、2011年度から京の川の恵みを活かす会の努力によってアユの遡上期に仮設魚道が設けられ、さらに2014年度末には堰が撤去された。名神高速道路のすぐ上流側にある**今井堰**にも2013年度から仮設魚道が設けられるようになった。活か

す会ではさらに上流の落差工にも徐々に仮設魚道の設置を拡大しており、近い将来、鴨川の全域にアユの遡上することが期待されている。

伏見の中央部を流れる川は**東高瀬川**で、**三栖**の京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーの横で**宇治川**に合流する。以前は上流端に鴨川からの水が流れ込んでいたが、今は縁が切れている。東から合流する**七瀬川**は、伏見区深草地域の**大岩山**に源を発する、流域面積3.7km²、河川延長約5kmの1級河川である。川幅が狭く、暗渠部もあることから、治水安全度が低く、浸水被害がたびたび発生したため、1992年度から京都市によって都市基盤整備河川改修事業が進められ、2007年度に二層式河川の区間が完成した。平常時は浄化施設を通して、二層式河川の上層部のみに水が



東高瀬川



七瀬川



墨染発電所横の船溜まり



疏水放水路



出合橋



宇治川派流



三栖閘門

流れ、せせらぎ風の憩いの場となっている。増水時には大半の水は下層部の暗渠を通して**東高瀬川**に流出する。

七瀬川の合流地点から下流の東高瀬川は国の直轄区間となっており、すぐ下流で疏水放水路が合流する。**琵琶湖疏水(鴨川運河)**は南区内で鴨川の東を南流した後、伏見区にある**関西電力墨染発電所横の船溜まりインクライン跡**で一旦暗渠となり、**東住吉橋**のあたりで南流して**伏見港**に向かう**濠川**と、西流して東高瀬川に向かう**疏水放水路**に分かれるが、その流量配分は水門によって制御されている。濠川は往時栄えた伏見城の濠である。

東高瀬川の東隣には普通河川である**旧高瀬川**が流れているが、これは河川と呼ぶにはあまりにも小さな溝と化している。この溝を下ると、やがて**出合橋**の近くで濠川に出るが、ここは濠川から**宇治川派流**が分岐する点で、近年、伏見港と合わせて景観を良くし、親水性を高めるとともに、生物にも配慮した環境整備がなされ、最近では**十石舟**や**三十石船**が往来する。宇治川派流は、もともとは**観月橋**の直下流で宇治川を分派させ、伏見港へ流れ込ませていたのであるが、宇治川の水位が下がったため、今では逆に濠川の水の一部が宇治川派流を通して宇治川へ流れ出ている。

濠川をさらに下ると、いよいよ伏見港である。以前はここが京都と大阪をつなぐ淀川舟運の港として賑わったが、今は**三栖閘門**がその面影を残すのみとなっている。しかし、2003年の世界水フォーラムの際、閘門の旧操作室を改装して**三栖閘門資料館**が開設され、**伏見みなと広場**として新たな賑わいを見せている。閘門のタワーに上ると、対岸には向島の広大な遊水地が広がり、さらに南方

コラム① 宇治川の氾濫

1953年9月25日に上陸した台風13号により、宇治橋下流では、右岸の無堤地区が浸水し、浸水面積は275haに及んだ。さらに、木津川、桂川の増水の影響を受け、宇治川の水位が上昇し、向島下流約2kmの左岸堤防約450mが破堤するに至った。このため、木津川より東、宇治川に至るまでの佐山、御牧地区、巨椋池干拓地一帯が25日間の長期にわたり浸水した。



宇治川の破堤 (1953年)

[京都大学防災研究所展示資料より]

この災害の後、宇治川の上流に天ヶ瀬ダムが建設されることになり、1964年に完成した。1965年9月17日の台風24号では、観月橋付近の外環状線に宇治川の水が流れ込み、一帯が浸水した。



宇治川の出水 (2013年)

[写真提供:国土交通省]

2013年9月16日の台風18号では、氾濫は免れたものの、宇治川は相当に増水し、堤防からの漏水が数カ所で見られるなど、緊迫感が漂った。

には巨椋池を干拓してできた農地や向島ニュータウンも遠望できる。広場の西側には国土交通省淀川河川事務所伏見出張所があり、構内にある**上流域流域センター**は河川レンジャーの活動拠点になっている。

そこから宇治川の堤防沿いに歩いて東高瀬川を渡ると、**京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー**がある。その敷地は7万㎡にも及び、大学の水理実験施設としては世界一の規模であろう。最近、構内の中庭の一部に巨椋池流域の1/200スケール模型が作られ、市民の防災と環境学習に供されている。

ところで、伏見には「**七つ井**」と呼ばれる名水がある。七つ井とは、**石井**(御香宮)、**常磐井**(キンシ正宗)、**春日井**、**白菊井**(伏見小学校)、**苔清水**、**竹中清水**(宝酒造)、**田中清水**の井戸(湧水)のことで、伏見の酒造りに欠かせなかったが、現在ではほとんどが涸れている。他に現存する名水としては、**菊水若水**(城南宮)、**金蓮清水**(大黒寺)、**不二の水**(藤森神社)、**関伽水**(長建寺)、**伏水**(黄桜酒造)、**茶碗子の水**(深草野手町)、**清和の井**(清和荘)、**さかみづ**(月桂冠大倉記念館)、**白菊水**(鳥せい)、**洗心井**(北向山不動院)、**勝水**(乃木神社)などがある。

観月橋の北東部にある丘陵地は**桃山丘陵**と呼ばれ、伏見城のあった所である。伏見城は豊臣秀吉と徳川家康によって、3度にわたって築城され栄えたが、焼失したり取り壊されたりして、廃城となった後には桃の木が植えられて桃山と呼ばれるようになった。しかし、現在ではその面影はない。最初に造営された伏見城は指月伏見城と呼ばれ、観月橋のすぐ北東にあった。当初は豊臣秀吉の隠居城であったが、その後淀城や聚楽第を移して拡



伏見みなと広場



京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー巨椋池流域模型 (製作中)



石井 (御香水・御香宮)



清和の井 (清和荘)



勝水 (乃木神社)



伏見桃山城



伏見北堀公園

張し、絢爛豪華な城に修築されたが、1596(慶長元)年の大地震で倒壊した。その後、豊臣秀吉は木幡山に2ヶ所目の伏見城を造営し、秀吉の死後、徳川家康が入城した。1600年8月、関ヶ原の合戦の前哨戦で落城したが、家康が再建し、徳川三代にわたる将軍就任の舞台となった。しかし、1623年には廃城されている。

山上に聳える伏見桃山城大小守閣は1964年に建立されたもので、周囲は公園となっているが、耐震性の問題から現在建物内への立ち入りが禁止されている。伏見城北側の外堀の遺構を利用して1993年に開設された**伏見北堀公園**は、区民の憩いの場となっている。

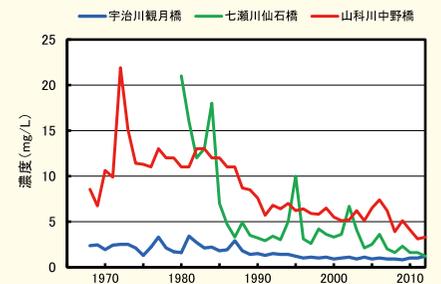
コラム② 伏見の川の水質

伏見の伏流水の水質は、酒造に用いられることからわかるように、概ね良好である。しかし、旧巨椋池流域の地下水は鉄分が多く、空気に触れると酸化して赤茶色の沈殿を生じることがある。山科川の一部や七瀬川においては、1980年代の前半までかなりBODが高かったが、その後急速に改善されている。日野川においても平常時は概ね水質が良好であるが、ときおり晴天時であるにもかかわらず、川が白濁して、魚が浮き上がるようなこともある。下水道整備ができており、本来汚水が河川に流れ込むことはないはずであるが、不注意により、汚水を雨水側溝などに流すことがあるのであろう。また、面積が減ったとは言え、農地からの肥料や農薬の流出も、下流の大阪湾への負荷を考えると、一層の抑制を心がける必要がある。

地下水に鉄分が多いことを反映して、河原に生育するヨシの根に水酸化鉄が付着して固形化し、周囲の土が侵食されたあとに幼児や動物に似た形の鉄の固まりが残存して

いるところがある。全国的に有名なのは愛知県の高師原で、高師小僧と命名され、天然記念物に指定されている。伏見の近辺では、八幡市木津川御幸橋近辺の河岸崖に多く見られる。

木津川御幸橋下流
左岸崖に見られる高師小僧



宇治川観月橋、七瀬川仙石橋、山科川中野橋におけるBOD年度平均値の経年変化

3 伏見区東部の川

桃山丘陵の東、伏見区東部を流れる主な川と言えば、「**山科川**」である。山科川は京都市山科区から伏見区へ流れる、宇治川の支流で、山科区の中央部を南へ貫流した後、**小栗栖地区**で緩やかに南西に向きを変え伏見区に入り、**六地藏地区**から西にまっすぐに流れて**伏見区桃山与五郎町**と**桃山町伊賀**の境で**淀川(宇治川)右岸**に注いでいる。JR奈良線と京阪電車宇治線、地下鉄東西線の駅が近接する六地藏の周辺は、長らく湿地帯であったところであるが、宇治川上流の**天ヶ瀬ダム**の建設と山科川の改修による治水安全度の向上に伴って宅地化が進み、今やこの地域の賑わい



山科川(小栗栖付近)



山科川・宇治川合流点



供水峠の湧水



方丈石の碑



合場川(不動講町)



京都薬科大学薬草園



日野川ホテル護岸

の中心となっている。ここから下流の山科川は宇治川の背水が及ぶ区間であり、国の直轄となっている。その上流は同じ1級河川であっても、京都府の管理する指定区間となっており、京の川づくり事業の一環として環境整備がかなり進んでいる。

この山科川の支流に1級河川**合場川**があり、**日野地区東部**の山地から西に流れ出て、地下鉄「石田」駅の西で山科川に合流する。合流点のすぐ下流には、京都市の**石田水環境保全センター**がある。合場川の源流部は**供水峠**であるが、峠のすぐ手前に供水を祀る祠があり、春の彼岸から秋の彼岸までの半年間、湧水が出る。その麓近くには鴨長明が方丈記を表した庵のあったとされる**方丈石**がある。そのすぐ下流には**野外活動センター**があり、そこからしばらくの区間は地元不動講町の方々によってホテルを育てる運動が続けられている。野外活動センターの脇の支流を北東に上ると、ほどなく「御滝」と称する瀧があり、その上に不動明王が祀られている。その合流点の数百m北には**京都薬科大学薬草園**がある。また、そのすぐ北に新池と呼ばれるため池があったが、最近埋め立てられた。合場川の勾配は急で、洗掘を防ぐため、底面もコンクリートで固められたいわゆる三面張りとなっているが、普段の水量はごく少ない。近くには日野小学校と春日野小学校という2つの小学校があり、春日野小学校の横で、支流の日野川が合流する。

日野川は、宇治市の**天下峰**に源を発し、宇治市の区間では普通河川であるが、京都市に入ってから準用河川に指定され、改修がなされている。途中の**野色地区**にはホテル護岸が整備され、近年までホテルの飛翔が見られたが、ここ数年はそれも見られなくなっている。そのすぐ下流から

は、元の川筋に人家が張り付いていて改修が行えず、1kmほどに渡って地下に暗渠の放水路が掘られ、洪水はそちらへ流れるようになった。その分派点の約500m下流にある**岡西橋**のたもとに、**法界寺**と親鸞聖人の**誕生院**がある。その約500m下流で先に述べた地下放水路が旧河道と合流し、そこから下流は、かなり断面の大きな河道となり、兩岸には高さ1m程の転落防止柵が施されている。

改修後は毎年川浚えが行われ、河床が平らに均されるため、生物がほとんど住めない状況になっていたが、地元の日野川水辺の会の要望によって、最近では、**日野橋**よりも下流の区間は定期的な浚渫を行わなくなっている。



法界寺



日野川

コラム③ 日野の歴史、市民活動

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」の書き出しで有名な鴨長明の方丈記は、伏見区日野の里、合場川上流部の山中の草庵で書かれたと伝えられている。

合場川の背後には琴弾山という丘があるが、平重衡が源氏の捕虜となり鎌倉から南都に送られるときに内室との別離を惜しんで琴を弾いたとの謂れがある。

その合場川の支流に日野川があり、1985年度より改修工事が進められ、高さ3m程のコンクリートブロック護岸の深い川となり、転落防止のためのフェンスが張り巡らされて、人を遠ざけることになった。川沿いに春日野園という保育園があるが、地元ではこの保育園を拠点として、2009年に「日野川水辺の会」を立ち上げ、保育園の横の長さ20m、奥行き5mの土地を寄付して川幅を広げてス

ロープを作り、安全に川へ降りられるようにする要望を京都市に提出した。まもなくこの要望が認められ、3度にわたるワークショップを経て、2003年に「はぐみワンド」が完成した。これにより、子どもたちが安全に川で遊べるようになるとともに、水辺の会と保育園の手によって周辺を含めた河川清掃が行われ、良好な状態が維持されている。



日野川はぐみワンド



はぐみワンド



醍醐寺



独鈷水



弘法大師杖の水



洛東用水路

日野橋の下流約300mのところに保育園があるが、2003年にその横の20mの区間で堤防を後退させてワンドを設け、階段で水際まで降りられるよう環境整備が行われた。地元ではこれを「**はぐみワンド**」と称している。その保育園ではさらに、正門前の水田跡を利用したビオトープ整備も行っている。

合場川の合流点より約1km上流側で山科川に合流する支川として、**万代川**があり、その上流部に世界遺産の**醍醐寺**がある。醍醐寺の仁王門より北へ黒門を出てすぐ右側に**威独水井戸**がある。不動滝を経て**上醍醐寺**に上ると、**醍醐水**があり、名水として知られている。醍醐寺の北、旧奈良街道、新町バス停の少し北に「おこうずいさん」と呼ばれる**独鈷水**がある。以上、威独水、醍醐水、独鈷水を**醍醐三水**と呼ぶ。

また、山科川の西、小栗栖地区から伏見に通じる山中には、**弘法大師杖の水**がある。

ところで、この**醍醐地区**に、琵琶湖疏水の水を導く**洛東用水路**がある。これは**第一疏水藤尾分水口**より、延長11kmに及ぶ灌漑水路で、1892年以後徐々に南に延伸され、1948年に日野まで到達したが、その約半分は応急的な素掘り水路であったため、日野までは水が到達せず、現在、醍醐から南の部分は廃止されている。しかし、山科から醍醐寺裏までは用水路として健全に守られており、毎年5月3日に水路掃除をして保守されている。

山科川の源流は高塚山東麓の伏見区醍醐陀羅谷にあり、そこから北流して山科区に入り、音羽の滝を経て**音羽山**の北側で西に向きを変える。その後北東から流れてくる**四宮川**を合流して南に向かった後、西北から流れてくる**安祥寺川**および**旧安祥寺川**を合流して伏見区に入る。

4 伏見区南部（向島と巨椋池）

向島は、元は伏見の南に広がっていた巨椋池の中の湿地帯であったが、豊臣秀吉が文禄年間に伏見城を築くにあたって、宇治川の川筋を伏見へ北上させるために**榎島堤（宇治堤）**を築き、**大和街道（奈良街道）**を**豊後橋**（現在の観月橋）に直結させ、近隣住民の一部をここに移住させた。文禄3年、家康は向島の私邸において観月の宴を催し、そこに正客として秀吉を招いている。秀吉はこの観月の宴をたいそう楽しみ、後に自分も月見の城を築いた。それが向島城である。秀吉没後、向島城は家康の居城とされたが、元和6（1620）年に伏見城とともに破却された。かつて城があった辺りには現在**向島ニュータウン**ができ、城跡としての面影は全くないが、名残として、本丸町、二の丸町、鷹場町などの地名が残されている。近鉄向島駅のすぐ前から東方600mにわたって、向島中央公園があり、その中央から東西に幅約2mの**せせらぎ水路**が流れ出ている。水源は地下水で、鉄分が多く含まれているが、メダカ、ホタルの生息やハスの開花も見られ、市民の憩いの場となっている。

向島の北端に位置する**宇治川左岸河川敷**には広大な**ヨシ原**が広がり、ツバメの**おぐら**の埒地として、全国的に知られている。その中央部を第二京阪道路が横切ることになった時、照明の向きや色等、その影響を緩和する工夫がなされた。一方、その東側の河川敷には軟式野球場9面、少年野球場4面を有する**宇治川公園**が広がり、市民のスポーツ振興に役立っている反面、自然環境を侵していることから、国土交通省宇治川河川保全利用委員会ではその漸次縮小を提言している。

向島の西方から久御山町北部、宇治市西部に



観月橋



向島ニュータウン中央公園のせせらぎ水路



宇治川ヨシ原



巨椋池干拓地内の内田蓮園



大池神社

かけては、広大な農地が広がっている。これは**巨椋池干拓地**で、京都府南部の穀倉地帯となっている。その西北端、国道1号線の直近の**一口地区**に、**内田蓮園**があり、100種類ほどのハスが栽培されている。また、そのそばに巨椋池の動植物を鎮魂する**大池神社**があり、漁業記念碑が建っている。そのすぐ南には、かつて巨椋池漁業権の総帥として**御牧**13ヶ村の庄屋であった登録有形文化財の**旧山田家住宅**があり、風格のある主屋・長屋門・長塀が残っている。そのすぐ傍には、**前川**と呼ばれる**巨椋池排水幹線**が流れており、兩岸の堤は桜の名所となっている。前川の下流端すなわち宇治川左岸への合流点には、巨椋池土地改良区

の管理する基幹排水施設である**巨椋池排水機場**、そのすぐ隣には、国土交通省の管理する**久御山排水機場**があり、巨椋池地区の内水災害を防止している。巨椋池排水機場の一面には**巨椋池まるごと格納庫**があり、巨椋池の資料とともにジオラマ模型が展示されている。



山田家長屋門

コラム④ 巨椋池

巨椋池は京都府の南部にかつて存在した池で、豊臣秀吉による伏見城築城期の築堤をはじめとする土木工事などにより、時代によって姿を変え、最終的には1933（昭和8）年から1941（昭和16）年にかけて行われた干拓事業によって、農地に姿を変えた。干拓前の巨椋池は、周囲約16km、水域面積約8km²で、当時京都府で最大の面積をもつ淡水湖であった。

宇治川が京都盆地に流れ込むところは、京都盆地の中でも最も低いところに位置しており、木津川、桂川との合流点の上流側にかけて広大な遊水池を形成していた。池の北側には多くの島洲が形成されており、現在も残る榎島や向島などの地名はそこが池に囲まれた島であったことに由来する。

巨椋池は多様な動植物の生息地として、

豊かな環境を育み、多くの人に恩恵を与えてきた。また、池内においては内水面漁業、沿岸では水田耕作等の農業が営まれた。干拓地は現在も京都・大阪に近接した一大農業地帯として、米や野菜などが生産されている。



巨椋池の地図

〔出典：農林水産省ホームページより〕